本省検印濟
明治七年五月ヨリ
九年八月マテ
全
本省検印濟
明治七年五月ヨリ
九年八月マテ
全
五十年史料
185
東京大学総合図書館

本省検印濟
明治七年五月ヨリ
仝九年六月マテ

明治七年十二月ヨリ九年八月マテ

本省検印済

東第五百九拾号

第三百廿六号

手銃引渡方之儀願

一 手銃 四拾九挺

但銃鎗共

右者校中土蔵内諸道具類今般都テ調査之処平常不用締切致シ置候古土蔵内ニ有之候品ニテ草創ノ比旧大病院之節入院銃瘡患者保護ノ為メ相備置候儀ニ有之候処追々御改正銃砲取締法規則モ相立殊ニ学校ニテハ全不用物ニ有之武庫司エ引渡申度候間可然御所分相願候也

明治七年五月十六日

東京医学校出勤

文部省七等出仕 前田元温

受第二千三百七十七号

第三百五十五号

同　学校長
文部省四等出仕　相良知安

文部少輔田中不二麿殿

申出之趣其校ヨリ直ニ陸軍省武庫司ヘ引渡可事
但日限之儀ハ一六ノ日ヲ除キ何日ニテモ差支無之筈ニ候事

明治七年六月四日

文部少輔田中不二麻呂之印

学第拾七号

當校休業中教官ノ向帰省湯治等致度者ハ伺之上
出立候不苦候哉相伺候也

明治七年七月四日

東京醫学校

本省
御中

受第百四十号

附第百九十九号

第四百五十三号

外國人民中病氣ニ有入院願出候者ハ御國人同様ノ處分ヲ以入院差許可然哉此段相伺候也

明治七年六月八日

東京醫學校出勤
文部省七等出仕前田元温

同学校長
文部省四等出仕相良知安

文部少輔田中不二麿殿

受二千五百四十七号

学第千三百二十八号

伺之通

明治七年七月八日

文部少輔田中不二麿之印

第弐百六十八号　八月三十日

第五百九十一号

官ニ職制アリ務ニ章程アリ深旨アリ以テ綂紀ヲ明カニシ諸官ヲシテ遵守スル所アラシム是制程ノナカルベカラサル所以ナリ依テ當校職制及権限共別紙當分仮定ノ心得ヲ以テ施行致度此段上申相伺候也

明治七年八月廿九日

東京醫学校出勤
文部省七等出仕　前田元温

東京醫学校長
文部省四等出仕　相良知安

文部少輔田中不二麿殿

学第千六百九十七号

伺之趣ハ其國領事ノ添願ヲ出サセ病院諸規則相示シ兼諸ノ書面為認入院可差許事

明治七年七月廿四日

文部少輔　田中不二

麿之印

伺之趣別冊ヲ以相達置候事

明治七年九月十八日

文部少輔
田中不二麻呂之印

学校長
出仕

用度課
粟田邊一郎

内雇教師ミユルラル ホフマン両名へ御給料相
渡方并雇門衛及使丁給料之儀ハ別紙本省ヨリ
御指令ノ趣ニ随テ出金書中給料之義モ其時々可伺
出之処記載有之候得共右ハ被営繕ニテ御渡相成候
都テ経伺ニ随ヒ渡其其他時々少給ニ付[illegible]
ヨリ通ノ往可伺哉

第六百拾七号

受乙第百七十号

教師館處分之義ニ付伺

舊御雇教授ミュルレル ホフマン両氏ヘ貸渡相成居候館舍並縫門衛等之義自今當省ニ而取計ニ無之哉此段相伺候也

明治七年九月十二日

東京医学校出勤
文部省七等出仕 前田元温
同校長
文部省四等出仕 相良知安

文部少輔田中不二麿殿

會第六百三十号

書面之趣門衛之儀ハ従前之通可心得修繕
之儀ハ其時々可伺出候事

明治七年九月十八日　文部少輔田中不二麿之印

第六百二十三号

澳国領事エ謝物送方之義ニ付

伺

昨明治六年中澳国書肆ヨリ献本ニ付謝儀送方
御達之趣領承仕候右ハ御雇教師共エモ及合候
處本邦書籍等之御謝儀ニ候得ハ品價運賃共合
テ不尠入費ニ候共彼意ニ充申間敷却テ大日本
文部省御用書肆（或ハ大日本東京医学校御用書
林）ト招牌被差許別ニ献本御謝状被相添候ハヽ
大ニ名誉ニ関シ本懐可致別ニ謝品御差遣ニ及
ハサル旨申出候如何取許可申哉御指令ニ因リ
何レ共謝状相認メ可申ニ付至急御評決相成度
此段相伺候也

受弐拾三号

学第千七百四十三号

明治七年九月十八日

東京醫学校兼勤
文部省七等出仕　前田元温

同校長
文部省四等出仕　相良知安

文部少輔田中不二麿殿

書面招牌差遣候儀ハ先方之模様ニ依リ
追而詮議之次第モ有之候得共先以過般相
達候通書籍取調差送方至急可申出右ハ外務
省ヨリ度々催促申来候条早々可取計候事

明治七年九月廿三日

文部少輔田中不二麿之印

先般當校附属病院ヱ外國人入院受療御差許相成度旨相伺候節右規則ハ追テ取調可相伺旨申上置候處今般別紙之通り相定度此段相伺候也

明治八年三月十日

東京醫学校長心得
三等教授三宅　秀

仝　校長
文部省四等出仕長与専齋

文部大輔田中不二麿殿

伺之通
但朱書之通可相改事
明治八年二月廿日
文部大輔田中不二
麿之印

外國人入院規則

第一章
一入院中ハ総テ醫官并病室掛ノ指示ニ従フヘシ

第二章
一入院ヲ乞フ者ハ必ス通辯人ヲ召連ベシ
但我國語ニ通ズル者ハ此限ニアラス

第三章
一藥餌ハ一切校ヨリ渡スベシ其他ノ食類ハ医官ノ許可ヲ得ス〆用ユルヲ禁ス

第四章
一入院料三等ヲ設ク

上等　一日　金貳円
中等　一日　金壱円五拾銭
下等　一日　金壱円

第五章

一入院料ハ毎月十日毎ニ納メシム

第六章

一通辯人及ヒ附添人賄料ハ一日金廿銭ヲ納ムベシ
但通弁附添等外国人ナル時ハ其賄料ハ入院料洋價ヲ払ルト同様タルベシ

第七章

一特別ニ看病人附属ヲ乞フ者ニハ入院定料ノ外ニ一日壱人ニ付金拾三銭三厘ヲ納ムヘシ

第八章

一大手術ヲ施ス時ハ前以本人及ヒ証人エ通知スベシ

第九章

一外出散歩ハ午後四時ヲ限リトス他エ止宿スベカラズ

第十章

一入院ノ節ハ左ノ雛形ノ証書ヲ持参スベシ

右之件々堅ク循守スベキ事

明治八年二月
東京醫学校

證書雛形

何國

身分或ハ府縣省使ノ雇カ日本何地何番商社中カノ類明細ナルヲ要ス

姓名

年

右入院御聞済之上ハ院中ノ諸規則為相守入院料上納及ヒ本人身上ニ関係スルノ事件ハ一切引受可申候也

年号月日

日本何地在留領事官

姓名花押

東京醫学校

御中

学第二千二百十七号

第三百三拾四號

当校権限中申稟許可ヲ請フベキノ條欵第五條
ヒ廻書据加非判決處分スベキノ條欵第八條ヲ
申稟許可ヲ請フベキノ条欵第七條ト改定相
成ル旨達シ趣致領承候處今般申稟許可ヲ請フ
ヘキ條欵第七條ノ義教場用書籍薬品等海外ニ
注文致シ品着港ノ節陸揚用及外國教授來朝ノ
節接遇ノ為メ教員吏員等出張申付候ニ付裁可
ヲ請ヒ候テハ夫レカ為メ時日遷延致シ不都合
不尠候ニ付右條欵廻書ヲ以横濱出張ヲ命スルハ
此ノ限ニアラスノ文致追加候ハ此段相伺候也

明治九年八月三十一日

東京醫学校長代理

文部省四等出仕　池田謙斎

文部大輔代理

文部大丞九鬼隆一殿

伺之趣本年九月廿五日附ヲ以相達候事

明治九年九月廿五日

文部大輔代理之印